

みずほプラン

ひかりっ子 卒えんプログラム
かがやきっ子 入学プログラム

瑞穂市教育委員会
瑞穂市幼保小連携推進会議



みずほプラン

ひかりっ子 卒えんプログラム かがやきっ子 入学プログラム

幼保小の接続とは、全ての段差をなくし、なめらかなスロープにすることではないと考えています。幼児教育で身に付けた力をもって、小
学校生活にジャンプし、適応できる力を付けることだと考えています。

そのために、幼稚園や保育所における幼児教育は、その特性を踏まえて、たっぷりの遊びを通じて学ぶことの楽しさを知り、積極的に物事
に関わろうとする気持ちをもてるようにすることが大切だと考えています。幼児教育においては多様な体験をし、様々なことに興味や関心を
広げ、それらに自ら関わろうとする心情・意欲・態度を身に付けることが大切だと考えているのです。

そのような考えに基づいて、幼児期終わりのカリキュラムである「ひかりっ子 卒えんプログラム」を作成しました。5歳児の10月から
3月までの保育・教育について、月別及び場面別で活用できるようにしました。

「遊び」を通して豊かに身に付けた感性や学びの基礎を小学校生活につないでいくには、生活科の学習が適しています。生活科を中心にし
たカリキュラムにすることで、幼児教育との連続性を保ちながら、教科を中心とした小学校での学びに移行させていくようにしました。子
どもたちがもっている力を発揮できるようにすることで、自己肯定感を高め、自信をもって小学校生活に移行できるよう配慮することが大切だ
と考えます。

このような考え方に基づいて、小学校入学後の接続期カリキュラムである「かがやきっ子 入学プログラム」と「3つの自立プログラム」
を作成しました。

このプログラムの実践を一つの手立てとして、光り輝く「みずほ」の子どもを育てることを願っています。

目次

ひかりっ子 卒えんプログラム	月別計画	1～11
ひかりっ子 卒えんプログラム	場面別計画	12～19
5領域と3つの自立のつながり		20
かがやきっ子 入学プログラム	指導計画	21～29
かがやきっ子 入学プログラム	実践	30～42

ひかりっ子 卒えんプログラム

月別計画

幼児期は、生活の中で自発的・自主的に環境と関わりながら直接的・具体的な体験を通して、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度などを身に付けていく時期です。そこで、5領域における子どもの発達を、心情・意欲・態度の面から適切に把握して、よりよい環境を構成し、総合的に保育・教育を行うことが大切です。

幼児教育における領域は、独立した授業として行われる小学校の教科とは違います。領域別に活動内容を編成したり、特定の活動と結び付けて指導したりするものではありません。生活の全体を通じて、様々な体験を積み重ねる中で相互に関連をもたせながら次第に達成に向かえるよう保育課程を工夫します。

「月別計画」では、卒園までを見通した時間の流れの中で、保育・教育のねらいを明らかにし、声かけや仲間とのかかわり等を見直しました。これは、特別なことや新しいことをしようとするものではありません。すでにどの園でも行われている活動を少し接続の意識をもって行うことで、小学校入学後、その経験が効果的に生きるように願っているものです。

幼稚園・保育所での幼児教育において
子どもの育ちをとらえる視点「領域」

- ・心身の健康に関する領域「健康」
- ・人とかかわりに関する領域「人間関係」
- ・身近な環境とかかわりに関する領域「環境」
- ・言葉の獲得に関する領域「言葉」
- ・感性と表現に関する領域「表現」

ひかりっ子 卒えんプログラム 月別

月	10月	12月	1月	3月	小学校へ
ねらいと内容	<ul style="list-style-type: none"> ○生活の流れがわかり見通しを持って生活を進める <ul style="list-style-type: none"> ・次にすることを考えて片付けたり、生活の場を整えたりする。 ○友達と共通の目的に向かい、思いや考えを伝え合いながら遊びを進める。 <ul style="list-style-type: none"> ・友達と意見を出し合い協力しながら遊ぶ。 ・友達の良さや得意なことを認め合う。 		<ul style="list-style-type: none"> ○卒園、進学に期待を持ち自身を持って園生活に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・友達との触れ合いを十分楽しむ。 ・日常生活に必要な標識や文字に関心を持つ。 ○友達と協力しながら遊びを進め、やり遂げる充実感を味わう。 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な考えを取り入れ工夫しながら遊びを進める。 ・集団の中で自分の役割がわかり、意欲的に取り組む。 		
養護	<p>情緒の安定 生命の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの気持ちを暖かく受容し園生活の様々な場面で子どもが安定し、かつ自己を十分に発揮して活動できるように配慮する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○自分でできたことに自信や満足感が持てるようにする。 ○小学校入学を不安に思っている子もいるので安心して卒園できるように配慮する。 		
教育	<p>健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分たちで生活を見通して準備や片づけをする。 ○今日、今週の予定を知り生活しようとする。 ○十分に体を動かして遊ぶ。 ○散歩を楽しむ。 <p>人間関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一年生なることに期待と不安を持つ。(就学時健診) ○当番活動に積極的に取り組む。(欠席報告、給食当番、飼育当番など) ○社会事象に関心を持ち、知っていることを話したり聞いたりする。 <p>環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ○冬の自然を見つけて感じたことを伝えたり、それらを使って遊んだりする。 ○友達と一つの目的を持って考えを出し合ったり工夫しながら遊ぶ。 ○挨拶を進んでしようとする。また、呼ばれたらはっきりと返事をする。 ○友達と関わりが深まり思いや考えを出し合ったり教えあったりして遊ぶ。 <p>言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○起きた問題を話し合って解決しようとする。 ○ごっこ遊びなど、年少、年中児を誘って遊ぶ。 ○文字や数への興味が高まりそれを生活に取り入れて遊ぶ。 <p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題に向かって最後まで頑張ろうとする。 ○様々な出来事の中で感動したことを伝え合う。 		<ul style="list-style-type: none"> ○生活リズムを身に付ける。(早寝、早起き、排便、食事) ○自分なりに時計を見ながら考えて行動する。 ○ルールのある運動遊びを楽しむ。 ○長い距離の散歩を楽しむ。(小学校見学) ○一年生になることに期待と不安をもつ。(一日入学) ○飼育や生活に関わる年長児の役割を自信を持って年中児に伝える。 ○クラスの一員として自覚を持ち当番活動を行う。 ○日だまりや芽吹きなどに気付き春の訪れに期待を持つ。 <ul style="list-style-type: none"> ○集中して活動に取り組む。(30分程度) ○生活に必要な言葉を知り、使って遊ぶ。 ○友達の遊びや工夫を認め、一緒に考えたり応援したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな友達を誘って遊ぶ。 ○文字や数を使ったゲームや言葉遊びを楽しむ。 ○自分なりの課題をやり抜くようになり、新しいことへも挑戦しようとする。 ○自分の思いを話したり友達の思いに気付いたりして一緒に活動する楽しさや喜びを味わう。 		
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○グループや学級全体で話し合ったり、教え合ったりする場や機会をもつ。 ○子どもと一緒に色々な素材を集めたり準備したりし、自由に遊び使えるようにする。 ○遊びのイメージを実現するために必要な材料や方法を適宜提示する。 ○朝の会、帰りの会、仲良し会などを利用して大勢の前で話す機会を多くする。 ●午睡のない生活リズムを確立する。 ●時計の模型を活用し見通しを持って活動できるようにする ●給食の配膳、食事時間の目標を掲示する。 ●掲示物に文字環境を増やす。 ●保育室の正面を定め、落ち着いて話が聞けるようにする。 ●椅子での生活時間を増やしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ○見通しを持って生活を進めていけるように、予定や流れ、手順など知らせる。 ○自然事象、文字や数などを活動に取り入れる。 ○学級全体で行う活動をやりとげる機会を設ける。 ○できるようになったことを一つ一つ認め励まし、自信を持って活動に取り組めるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ●家庭に一定時間に登所できるように依頼する。 ●徒歩で登降所したり、長い距離の散歩を計画したりして、歩く体験を多くする。 <ul style="list-style-type: none"> ●落ち着いて話を聞く時間を長くしていく。 		

3つの自立 (学びの自立・生活上の自立・精神的な自立)

ひかりっ子卒えんプログラム 「生活(給食)で育む力」の月別計画

月		10月	11月	12月	1月	2月	3月	つながる力	
ねらいと内容		○食生活に必要な基本的な生活習慣や態度を身に付ける。 ・食事に必要な活動を自分で行う。 ・保育者や友達と楽しんで食事をする。			○食生活に必要な基本的な生活習慣や態度を身に付け進んで行動する。 ・健康な生活のリズムを身に付け楽しんで食事をする。			〈学びの自立〉 ・様々な食材を味わうことにより、健康と食物の関係(栄養バランス)について関心をもち、楽しんで食事をする。	
養護	生命の保持と情緒の安定	・一人一人の生活リズム、保育時間に応じて適切な食事が取れるよう、又、発達過程を把握し適切な援助を行い生活習慣の自立を図る。			・子どもの食べたいという気持ちを受容し、安心して楽しんで食べることができるようにする。			〈生活上の自立〉 ・時と場に応じた挨拶をし、自分で準備、片付けをするなど、食事に必要な習慣や態度を身に付ける。	
教育	健康	・準備、片付けを進んで行う。 ・食事のマナーを守って決められた時間内で食べる。 ・残さず何でも食べる。	机の準備 机ふき	牛乳、デザート を配る。	グループごとに衛生面を考え、給食を取りに来る。「〇〇グループさん」	・箸の置き方 ・食器の置き方(ミッキーになっていますか?) ・給食がそろっているか等の確認	あいさつ 「おいしい給食ありがとうございます。」 「お当番さん、ありがとうございます。」	机ふき ゴミ拾い、はき掃除	
	人間関係	・当番の役割を知り友達と協力して行う。 ・友達や保育者と一緒に食べる。	給食当番活動をする。						
	環境	・季節や行事の食べ物に関心を持つ。 ・配膳、食事などを通して数を数えたり量を比べたりする。(数、量、時刻)	トイレ、手洗い、消毒、ナフキン、箸の準備 良い姿勢で待つ	・三角食べ ・食事のマナー(食器の持ち方) ・スプーンを必要に応じて取りに来る。 ・天候に応じて機の配置を変更	食べ終わる時間の確認(40分程) 長い針が片付けだよ(シールを貼る)	食べ終わったら、各自あいさつ・片付けをする。 「ごちそうさまでした」 食器、ナフキンの片付け アルミ箔は折りたたんで片付け	会話を楽しんで、給食を食べる。		
	言葉	・食生活に必要な言葉を知り、使う。	今日のメニューを知らせる。 あいさつ 「いただきます」	食育の話を聞く。 (サンプルケース設置・「〜ワカメをタベルト髪が黒くなるよ」等	自分の思いを話す 「おかわりください」 「残してもいいですか?」 「半分にして下さい」	各自で歯磨き ・保育者の目の届く場所で実施 ・約束を守る(口に入れたまま歩かない、鏡を見て行う。) ・うがい・片付け	〈精神的な自立〉 ・苦手な食べ物があっても、がんばって食べようという気持ちを持つようになる。		
	表現	・香り、彩り、歯ごたえに気付いたり味わったり感じたりして食事を楽しむ。	歯磨きをする						
援助及び配慮		・楽しんで食事ができるように、食べ物の話をしたり、心地よい音楽をかけたりして環境に配慮する。 ・個別に丁寧に繰り返し関わり生活習慣の自立につなげていく。			・食器の置き方、食事時間などを掲示して主体的に活動できるようにする。 ・嫌いな物が食べられるようになったことを一つ一つ認め励ますように配慮する。				

ひかりっ子卒えんプログラム

「固定遊具を使った遊びで育む力」の月別計画

月		10月	11月	12月	1月	2月	3月	つながる力	
ねらいと内容		○様々な固定遊具を使い体を動かす事を楽しむ。 ・遊びを通して体を動かす楽しさを味わう。 ・遊びながらルールの大切さを知る。			○様々な固定遊具を使い友達と一緒に体を動かす事を楽しむ。 ・様々な固定遊具に進んで取組み工夫して遊ぶ。 ・ルールを守り安全に気を付けて遊ぶ。			〈学びの自立〉 ・様々な遊具のおもしろさを知り、体を動かすことを楽しむ。 〈生活上の自立〉 ・遊具の使い方やルールがわかり守って遊ぶ。 〈精神的な自立〉 ・体を動かして遊ぶ楽しさを味わい自信を持って取り組む。 ・目的を持ったことを、最後まであきらめずやり遂げようとする。	
養護	生命の保持と情緒の安定	・保育士や友達に認められたり、誉められたりする中で自分に自信を持って活動できるようにしていく。			・保育士や友達に認められたり、誉められたりする中で自分に自信を持って進んで活動できるようにしていく。				
教育	健康	・安全に気を付けて遊ぶ。 ・体を十分に動かして運動遊びをする。	使い方がわかりルールを守って遊ぶ 「どうやって遊んだらよかったかな」等その都度気付けさせるような言葉をかけていく。 子ども同士で気付き合う 「いい事に気が付いたね」「約束を思い出したね」 「小さいさんにも教えてあげようね」						
	人間関係	・友達と一緒に活動する楽しさを味わう。 ・保育者や友達と約束したルールを守る。	ジャングルジム 登る・・・ゆっくり登る・くぐって登る・すばやく登る。 「しっかり持って登ろうね」 頂上まで登る 色々な目的として使う・・・色鬼・高鬼 集団で遊びながら休憩場所や基地・家に見立てて使う。						
	環境	・様々な遊具に親しみ意欲的に関わる。	登り棒 自分なりにチャレンジしながら登る。 「手はしっかり握ってね」「足は棒を挟むようすると登りやすいよ」<コツを知らせる> 「降りる時はゆっくりね。手を離さないでね」 靴を脱ぐ 台を持ってくる 「どこまで登れた？」 登れた所に目印のテープを貼る(名前)						
	言葉	・自分の思いや考えを言葉で伝えたり相手の話を最後まで聞いたりする。	鉄棒 ぶたの丸焼き 両手で握り両ひざで鉄棒を挟む。 「鼻を鉄棒にくっつけられるかな」 足ぬき回り 両手の間に両足を入れて手を離さずぐるりんば 前回り 「お父さん指は下ね」 上体を前に倒す「お洗濯物みたいに半分こ」 「ブランコみたいにプーラプーラ」 手を離さず回る。 逆上がり 興味を持つ場合には傍に付き援助する。						
表現	・様々な固定遊具を使って工夫して遊ぶ。	チェンジ表を作る(シールを貼る) 「今日も〇〇にチャレンジしたんだね」 「〇〇できるようになったの！すごいね！」							
援助及び配慮		・チャレンジ、頑張る意欲を大切にしながら、個人差にも目を向け援助していく。 ・いろいろな遊具で繰り返し遊びながら、体の発達を促していく。			・子どものイメージを生かした遊びや創造的な遊びを育てるために、危険のない限り許容範囲を広げて行くようにする。(すべり台の反対滑り・反対登り、ブランコの立ち乗り、ぐるぐる廻し、ジャングルジムからの飛び降りなど) ・子どもの「できたよ」「やってみたよ」「こんなこと考えたよ」という満足感や工夫したことに共感し、次へ発展するよう盛り上げていくようにする。				

ひかりっ子卒えんプログラム 「縄跳び遊びで育む力」の月別計画

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	つながる力
ねらいと内容	○友達や教師と一緒に十分に体を動かす気持ち良さを味わう。 ・縄跳びに興味をもち、友達と一緒に遊ぶ。			○いろいろな跳び方を知り、意欲をもって自ら挑戦し、できた喜びを味わう。 ・様々な跳び方を知り友達と遊んだり挑戦したりする。			<p>〈学びの自立〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短縄、長縄の扱いを知り安全に使う。 ・体を動かす心地良さを知り、進んで取り組もうとする。 ・跳んだ数を数えたり比較したりする。 ・友達の話を聞いたり、自分の思いを伝えたりする。 <p>〈生活の自立〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縄跳びを大切に扱い、使用後は片づける。 ・所定の所に自分で片づける必要性を知る。 ・遊びに必要な言葉を知り使う。 <p>〈精神的な自立〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦手なことにも挑戦し、出来たことに自信をもち、教師や友達と共に喜び合う。 ・進んで取り組み、意欲をもって、継続する。 ・競い合ったり、共通の目的をもったりして、遊びを楽しむ。
養護	・幼児が園生活の様々な場面で、自分は受け止められているという安心感をもてるようにする。			・自分でできたことに自信や満足感をもつことができるようにして、卒園への期待感へ繋げる。			
内容	健康	短縄に触れ、自分で跳んでみる心地よさを感じたり、安全な跳び方を知ったりする。		長縄を使って、いろいろな跳び方を楽しむ。			
	人間関係	友達と一緒に縄跳びを楽しむ。		友達と一緒に長縄を使っていろいろな跳び方を楽しむ。			
	環境	友達と一緒に縄跳びを楽しむ。		友達の跳ぶ数を数えたり、自分の跳ぶ数を数えてもらったりする。			
	言葉	どんな縄跳び遊びをしているのかを話す。		挑戦する跳び方を言葉で言う。			
	表現	縄跳び遊びをして楽しかったことを言う。		自分が工夫したことや友達のがんばったことを認め合う。			
援助及び配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・縄跳びに触れる機会を多くし、安心して取り組めるような場を設定する。 ・個々の取り組みの過程を大切に認めや励ましをする。 			<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士互いに認め合ったり、アドバイスしたりして挑戦する意欲を高める場を大切にする。 ・個々の取り組みの結果に自信がもてるような援助に心掛ける。 ・数や跳び方など出来るようになったことが視覚的に分かるような環境を整え、意欲がもてるようにする。 			

月		10月	11月	つながる力
ねらいと内容		○友達と一緒に協働し、活動を作り上げていく喜びを味わう。 ・友達と協力して、共通の思いをもって、取り組もうとする。 ・いろいろな材料、用具を選んで、試したり、工夫したりしようとする。		
養護	生命の保持と情緒の安定	・友達や保育者とかかわり、安心して活動ができるようにする。		〈学びの自立〉
教育	健康	・じっくりと好きな遊びに取り組み、安心して活動をする。	指先を使って物づくりに、じっくりと取り組む。	・いろいろな材料や用具に触れ、用途に応じて選び、工夫して使おうとする。 ・数量や図形、マーク、文字に関心をもって使おうとする。
	人間関係	・自分の思いを友達に伝え、友達の思っていることに気付く。 ・友達と共通の目的をもち、一緒に活動する楽しさを味わう。	友達と相談をし、自分の思いを言ったり、友達の思いを聞いたりする。 友達と一緒に協力して遊ぶ。	・材料や用具、作ったものを大切にする。 ・親しみをもって、場に合った言葉を使う。 ・みんなの物や材料を大切にし、きまりを守ることの大切さに気付く。
	環境	・数量や図形、文字に関心をもって、遊びの中で使う。	数字や図形に関心を持つ。	・安定した友達関係の中で自分の作りたい物や考えを話したり、友達の思いにも気付いたりして、一緒に活動する楽しさを味わう。
	言葉	・売買の言葉のやり取りを楽しみ、自分の言葉で友達にわかるように話す。 ・文字などで伝える楽しさを味わう。	自分の思いを友達にわかるような言葉にして伝える。	・安定した友達関係の中で自分の作りたい物や考えを話したり、友達の思いにも気付いたりして、一緒に活動する楽しさを味わう。
	表現	・遊びに必要な材料や用具を考え、工夫して作ったり、飾ったりする。	いろいろな材料や用具に触れ、約束を守って正しく使う。	・必要なるものを工夫して作る。 ・看板・お金づくり・レジ作り 等
援助及び配慮		・子どもが主体的に取り組めるよう、子どもの考え、アイデア、工夫したことを尊重し認め、達成感を味わえるようにする。 ・友達同士で話し合う場を多く設け、助け合ったり、協力し合ったりして、友達とのつながりを深められるようにする。 ・いろいろな材料や用具に触れることができるよう、時間の確保、場所の提供をし、じっくり遊べるようにする。		

導入
子どもの遊びをきっかけに話し合う場をもつ。

自分の意見を言ったり、友達の意見を聞いたりする。
「いいね。」「やってみよう。」

お店決め、品物決め
・おもちゃ屋
・お菓子屋
・ゲームコーナー
・床屋さん
・マッサージ屋さん
・ハンバーグ屋さん 等

お店の係決め
どんな係が必要か話し合う。
・売り手・案内・レジ・呼び込み 等

役割を交代
・売り手
・買い手 等

できた品物を並べて開店準備(エプロンなどの身なり等)
お店の雰囲気作り(玩具や風呂敷等保育室内にある物を活用)

文字、数字に関心を持つ。
・お金・看板 等

売買の言葉のやりとり
「いらっしゃいませ」
「ありがとうございました」



・お菓子の空箱
・広告の切り抜き
・牛乳パック
・セロハン 等

・はさみ・のり
・ホチキス・ガムテープ
・セロテープポンド 等

必要なものを工夫して作る。
・看板・お金づくり・レジ作り 等

ひかりっ子卒えんプログラム

「製作活動で育む力」の月別計画

月		10月	11月	12月	1月	2月	3月	つながる力
ねらいと内容		○自分なりに考え工夫をし、自信を持って製作に取り組む。 ・できた時の満足感、達成感を味わう。			○友達と一緒に工夫して一緒に作ることを楽しむ。 ・思ったことを伝え合いながら一緒に作る楽しさを味わう。			〈学びの自立〉 ・様々な素材に触れ、興味や関心を持つ。 ・用具などの使い方を知り、大切に扱う。
養護	生命の保持と情緒の安定	・子どもの気持ちを温かく受容し、子どもが安定した気持ちで製作に取り組み、自己発揮できるよう配慮する。			・自分で製作したことや製作した物に自信や満足感が持てるようにする。			
教育	健康	○様々な素材を使って作る(自然物・廃材・画用紙・色紙・新聞・広告等)。*材料は種類別にカートに入れて取りやすいようにしておく。 (じゅずネックス・自然物の冠等)(クリスマスの飾り等)(おりがみ風・どんぐりごま等のお正月遊び)(節分のお面・マス等)(卒園製作・壁面作り等)						
	人間関係	・製作することの喜びや、達成感を味わう。	・自分で素材や色などを選んで作る。	・何を使うとよいかを考えて作る。	・様々な素材を試す。			〈生活上の自立〉 ・使った物は元に戻すなど片付ける。
	環境	・友達と一緒に活動する楽しさを味わう。 ・友達と共通の目的を持ち、協力して作る。	自分なりに出来上がりを想像する。	自分で考えながら必要な物を選んで使う。	考え試すことを繰り返す。			
	言葉	・用具等の使い方が分かり、作りたい物に必要な物を選んで使う。	○用具の扱い方を知る。(はさみ・のり・テープ・ボンド等)*タフロープは取り出しやすいように、はさみは片付けやすいように工夫する。 *のり下紙を準備する(広告紙・牛乳パック等を利用する)	・曲線でできた形や少し複雑な形を切り取る	・チラシ等に写っているものや人物の写真等を形に沿って切り取る	・接着方法等を試しながら作る		
	表現	・製作しながら友達との会話を楽しんだり、互いに認め合ったりする。	・「はさみを持っていない方の手はどうするといいいのかな?」など、考えられるようにする。 「はさみは、おへそのまえ」	「いい目によく見て切るといいよ」	「はさみを人に渡す時、片付ける時は、刃の方を握ると危くないよ」と知らせる	「のりは、中指につけると他の指(人差し指、親指)が使えるよ」	・出来上がった作品を互いに認め合う。	〈精神的な自立〉 ・自分なりに考え、工夫して製作し、満足感を味わい、自信を持つ。
	・製作した物についての思いを伝え合ったり、飾ったりする。	○友達と一緒に作る。(壁面は協力して製作したものを飾る)	・友達と協力して作る。	・達成感を味わう。				
		「みんなの気持ちを合わせたらどうなるかな?」 友達と作る楽しさを感じられるようにする。	一人一人の良さを丁寧に認める。	作品をすぐに掲示したり飾ったりする。				
援助及び配慮		・子どもがゆとりを持って製作に取り組むことができるよう、時間と場所を確保する。 ・子どもの発想を大切に、工夫したり努力したりする姿を励まし認めながら、喜びや満足感を共有する。			・友達の作品を見たり、工夫したところを認め合ったりしながら作る楽しさが味わえるようにする。 ・友達とイメージを共有し一緒に作る楽しさが味わえるようにする。			

ひかりっ子卒えんプログラム

「リズム遊びで育む力」の月別計画

月		10月	11月	12月	1月	2月	3月	つながる力	
ねらいと内容		○感じたことや考えたことなどを音や動きに表現して楽しむ。 ・いろいろな動物や自然事象などを自由に体で表現する。 ・歩いたり、走ったり、跳んだり等、リズムカルな動きを楽しむ。			○感じたことや考えたことなどを豊かにイメージし、様々に表現して楽しむ。 ・友達の表現を見たり、真似したりしながら表現する楽しさを味わう。		3月	〈学びの自立〉 ・簡単な曲やリズムに合わせ、身体を動かすことを楽しむ。 ・遊びを通して楽器の特徴を知り、楽器遊びを楽しむ。	
養護	生命の保持と情緒の安定	・一人一人の子どもが自信を持って活動できるようにする。			・一人一人の子どもが自信を持って主体的に活動できるようにする。				
教育	健康	○いろいろな動きを自由に表現する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> 実際に見たり触れたりするなど、実体験の場を大切にする。 </div>							〈生活上の自立〉 ・楽器の正しい扱い方を知り大切に扱う。
	人間関係	(秋の虫 落ち葉 木の実 サンタクロース こま 凧 雪 鬼など)							
	環境	○即時反応 ・音を聞いて反応する (音の高低 音のテンポ 音の強弱) (音の数)							
	言葉	・リズムに合わせて 歩く 止まる 走る ゆっくり歩く ジャンプ スキップ 転がる							
	表現	・楽器で簡単なリズム打ちをしながら歌う。							
援助及び配慮	○いろいろな楽器に触れる。 季節の歌に合わせて楽器を鳴らす → 拍子打ちをする → 歌いながら拍子打ちをする → 合奏遊び							〈精神的な自立〉 ・豊かな感性を持ち自分なりに表現できる。	

「誰がやってくるかな?」「りすさん」「ねずみさん」「ぞうさん」「かいじゅう」など、動物に例えて楽しむ。
 ・「散歩に出かけよう」「坂道・・・下り坂」「山に登ろう」「海だ・・・泳いでみよう」など、ストーリーを作って楽しむ。

子どもたちの反応を見ながら、自由に伸び伸びと楽しめるようにする。

♪ドレミの歌
♪世界中の子ども達が

ピアノの音がいくつなるかな? 鳴った数だけ友達をみつけよう。

手本を見せる時には、子どもの前に立ち反対の手に楽器を持つ。

カステネット→「カスタを持つ手はどっちかな?」「太陽とお空とどっちかな?」
 タンバリン→「左手でしっかり持ってね」「いろいろなところで鳴らしてみようか」
 すず→「左手でしっかり持ってね。右手で手首をポンポンポン」「細かく振るとかわいい音だね」

ひかりっ子卒えんプログラム

「歌で育む力」の月別計画

月		10月	11月	12月	1月	2月	3月	つながる力
ねらいと内容		○保育者や友達と一緒に歌を歌うことを楽しむ。 ・音楽に親しみ、歌を歌う楽しさを味わう。			○保育者や友達と心を合わせて歌うことを楽しむ。 ・友達が歌う歌を聴き一緒に声を合わせて歌う楽しさを味わう。			〈学びの自立〉 ・手遊びをしながら歌い、言葉のおもしろさ、数を知る。 ・様々な歌を知り歌うことの楽しさを感じる。
養護	生命の保持と情緒の安定	・安定した気持ちで伸び伸びと歌えるようにする。			・自信を持って伸び伸びと歌えるようにする。			
教育	健康	・保育者や友達と一緒に歌う心地よさを味わいながら生活する。		・保育者や友達と一緒に歌う。		・友達と一緒に歌いながら歌詞の意味を知り、姿勢に気を付けて歌う。		〈生活上の自立〉 ・生活習慣に関わる歌(片付け、はみがき、手洗い)を歌うことで、楽しく身の回りの事を進んで行う。 〈精神的な自立〉 ・友達と一緒に歌い合わせる楽しみや喜びを味わう。
	人間関係	・友達と一緒に声をそろえて歌う楽しさを味わう。		・保育者がゆっくり、はっきり、丁寧に歌う。 ・CDを流し、CDに合わせて保育者が口ずさんで知らせる。(フロッピーに曲を吹き込み流す。) ・「先生、この前山に遊びに行った時どんぐりを見つけたんだ。みんなどんぐりの歌があるんだけど…」と歌ってきかせる。		・歌詞が分かりやすいよう絵表示やペープサートを利用する。 ・歌い方の姿勢を楽しく知らせる。 「♪足を少し広げてね、お胸をピッとはりましょう。」		
	環境	・季節に合った歌を通して、自然事象に関心を持つ。		《季節の歌》 ・パスごっこ まつぼっくり たき火 ゆきのペンキやさん 豆まき 一年生になったら ・でぶいもちゃん まっかな秋 赤鼻のトナカイ ホ・ホ・ホ うれしいひなまつり きくの花 あわてんぼうのサンタクロース お正月				
	言葉	・歌詞の意味を知り歌で思いを伝え合う楽しさを味わう。		・友達と一緒に手遊びをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">手遊びを楽しみながら数を知ったり、体を動かす楽しさを味わったりできるようにする。</div>				
	表現	・保育者や友達と一緒に歌ったり、手遊びしたりして遊ぶ。		・アルプス一万尺 ・ちゃちゃつぼ ※いっちゃん家のえんとつ ・えりまきこれくらい ・鬼のパンツ ・キャベツの中から ・はちべいさんとじゅうべいさん ・お寺のおしょうさん ・ちゅうちゅうねずみ ・おおきくなったなんになる ※1丁目のウルトラマン ・やきいもグーチーパー ・おちやらかホイ ※三匹の子ぶた				
援助及び配慮		・生活の中で保育者が自然に歌を口ずさんで歌う楽しさを味わうことができるようにする。 ・歌のイメージや楽しさが増すように絵やペープサートを準備しておく。			・友達の歌を聞き合う場を設け、きれいな声に気付くことができるようにし、一緒に歌う楽しさが味わえるようにしていく。			

月		10月	11月	12月	1月	2月	3月	つながる力	
ねらいと内容		○身近な環境に親しみ、自然と触れあう中で様々な事象に興味関心を持つ。 ・自然に触れて生活し、その大きさ美しさ、不思議さ等に気付く。 ・季節により、自然や人間の生活に変化のあることに気付く。			○身近な環境に自ら関わり、発見を楽しんだり考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 ・身近な事象に関心を持ち、遊びや生活に取り入れようとする。 ・身近な物に興味を持って関わり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。				〈学びの自立〉 ・周りの変化に気付き、関心を持ち、自ら関わり、考えたり、試したり工夫したりする。
養護	生命の保持と情緒の安定	・一人一人の気持ちを受け止め、それぞれが自己発揮し、意欲的に生活できるようにする。			・一人一人の発言や発想を受容し、自分の思いを安心して言葉で伝えられるようにする。				
教育	健康	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の調節などを自分で行う。 ・戸外で存分に体を動かして遊ぶ。 							
	人間関係	<p>自然事象(季節の移りかわり)に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち葉が落ちる様子を見る。 ・散歩に行き(場所選択)木の葉の色に気付く。 ・雲の様子に気付く。 ・寝転がって空を見る。「〇〇の形みたい」「空に雲の模様ができているよ(うろこ雲等)」 ・冬の空を感じる。 ・上着を着る。 ・水が冷たい。 ・「白い息が出るねー」 ・雪が降る様子を見る。 ・溶けることに気付く。「雪だるまが小さくなってきたね」 ・春の空を感じる。「ぼかぼかいい気持ちだね」 ・散歩に行つて春みつけ(つくし、たんぽぽ、草花等) ・散歩図鑑を持って出かける。 							〈生活上の自立〉 ・季節の変化に応じて衣服の調節をしようとする。
	環境	<p>自然物に触れたり、遊んだりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>落ち葉遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困いを作り、落ち葉プールを作る。 ・押し葉を使って構成遊びをする。 ・葉脈写しをする。 <p>木の実遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木の実を種類に分け、名前を調べる。 マラカス: 廃材容器に木の実等を入れ、飾り、いろいろな音を楽しむ。 リズムにあわせて振る。 アクセサリー: じゅず玉、ストローを通し、ネックレス、プレスレット作りをする。 コリントゲーム: ダンボールや廃材で作り、木の実を転がす。 点数を書く。 <p>雪遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪合戦 ・雪だるま作り ・シャーベット作り: カップに雪を入れ、ごっこ遊びをする。 スコップ、カップ等を使用する。 							
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・不思議に思ったこと発見したこと、調べたことを言葉で伝える。 							〈精神的自立〉 ・共通の目的を持って遊ぶことを楽しむ。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な形・色・手触り動きなどに気付き感動したことなどを描いたり、作ったりして工夫して表現する。 							
援助及び配慮		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味・関心にあわせ、じっくりと遊び込む時間を十分にもつ。 ・様々な事物や事象に触れる機会を多く持つことができるよう計画的に設けたり、季節感のある遊びを取り入れたりしながら、環境構成を整えていく。 ・その時の事象の機会を逃さず、子どもと思いを共有していく。 			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味・関心に応じて、図鑑や関連する絵本等を準備する。 ・子どもが自分の思いを伝えやすいよう、思いに共感したり、言葉を補ったりしながら、話す楽しさを感じられるようにする。 				

ひかりっ子卒えんプログラム 「絵本で育む力」の月別計画

月		10月	11月	12月	1月	2月	3月	つながる力
ねらいと内容		○絵本や物語などに親しみ保育士や友達と心を通わせる。 ・絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。 ・絵本を通して言葉の楽しさや美しさに気付く。			○絵本や物語などに親しみ豊かな感性を持つ。 ・好きな絵本を選んで自分で読む楽しさを味わう。			〈学びの自立〉 ・絵本の中にでてきた絵や数、文字に関心を持つ。 ・人の話を最後までしっかり聞いたり、自分の思いを言葉で伝えたりする。
養護	生命の保持と情緒の安定	・安心できる雰囲気の中で読み聞かせをするようにする。			・安定できる空間を作り、好きな時に落ち着いて本を読めるようにする。			〈生活上の自立〉 ・読んだ絵本は、元の場所に片付ける。 ・絵本を大切に使う。
教育	健康	・保育者に絵本を読んでもらいながら、心の安定を図り、安心して生活する。		絵本を見る。		長い絵本を見る。		
	人間関係	・感じたり考えたりしたことを伝え合い、友達にも思いがあることに気付く。 ・保育者に絵本や童話を読んでもらったり、友達と一緒に絵本を読んだりする。		朝の会や帰りの会、給食後の時間(15～20分程)に絵本を読み、気持ちを落ち着けることができるようにする。 「今日は○○絵本を持ってきたよ。」 「みんな集まった？見えるかな？」 「見えない子は見えるところに来てね。」		前回読んだ絵本の続きを読む前に、読んだところを振り返り思い出すことができるようにして、 「どうなったのかなあ？」「これからどうなるのかな」などと子どもたちからの返答が返ってくるのを待つ。		
	環境	・様々な絵本に触れる。 ・絵本を通し、文字や数などに関心を持ち遊びに取り入れようとする。		友達と一緒に絵本を見る。		長い絵本を見る。		
	言葉	・絵本や物語を見たり聞いたりし、想像する楽しさを味わい、言葉で話そうとする。		仲よしの友達と興味のある絵本を一緒に探したり一緒に見たりする。 保育室の絵本コーナーにじゅうたんやござを敷き、ゆっくり見ることができる環境をつくる。 季節に合った絵本や今知らせたい本を身近に手に取って見られるコーナーを設ける。 ・絵本の片付け 「どこにあったのかな？」「絵本に貼ってある同じシールはどこかな？」 ・絵本の貸し出し 毎週決まった曜日に絵本袋に1～2冊、自分で見たい絵本を借り自宅に持ち帰り親子で見ると。 「なんべんも見た絵本でもいいよ、今度はお家の人に読んであげようか。」		・長い絵本 もりのへなそうる ももいろのきりん おしおのぼうけん エルマーのぼうけんシリーズ		
	表現	・絵本や童話、視聴覚教材などを喜んで見たり使ったりして、色々な表現を楽しむ。		<運動会や遠足> とんぼのうंदうかい おおきなおおきなおいもぐりとぐらのえんそく さるかに物語		<クリスマス> クリスマスのおくりもの サンタクロース モチモチの木 マッチ売りの少女		<お正月> 12のえと かさじぞう 貧乏神と 福の神
援助及び配慮		・子どもたちの興味のあるもの季節に応じた絵本を準備しておく。 ・読み聞かせしたい絵本や物語は、前もって目を通しておき、読み手と聞き手が物語を共有できるようにしておく。			・子どもたちが自分で絵本を見られるコーナー等を設ける。 ・就学に関する絵本を準備し、憧れがもてるようにしていく。			〈精神的な自立〉 ・好きな時に自分で絵本を読むなど意欲的に生活することができる。